



美と健康のまちづくり 久山町プロジェクト ～九州大学大学院人間環境学府の学生が、官民学協働による住宅設計を実施～

概要

現在、九州大学大学院人間環境学府空間システム専攻の大学院生、大学院人間環境学研究院都市・建築学部門の志波文彦助教、一級建築士事務所アトリエ・天工人（代表取締役 山下保博）、株式会社安成工務店、福岡県糟屋郡久山町は、久山町内において「美と健康」をテーマにしたまちづくり活動を行っています。プランやランドスケープを提案する「建築チーム」、農作物の選定やその維持・管理を検討する「農チーム」、コンセプトや活動を多くの方に広めていく「広報チーム」の3チームに分かれて活動し、学生が主体となって「農」を取り入れた新しい暮らしを提案します。学生の柔軟な意見と多様な業種の専門家・活動家が一つとなってプロジェクトを進めていくことで、学生がこれからの社会が求める住宅や暮らしを考え、実践的な視点・技術の習得を目指します。

背景

2006年の春より、建築家の山下保博氏が、これまでの主流であった経済優先主義の設計手法ではなく、生活者視点でのまちづくりを考えると、住むことで美しく健康になれる住宅、ひいてはその集合体としての街が望ましいのではないかと真剣に考え始めたことが、このプロジェクトのきっかけとなっています。慶應義塾大学（2010年～2012年慶應義塾大学大学院非常勤講師）の学生等と仮の敷地での設計や行政へのプレゼンテーション、TOTO ギャラリー・間（ま）での展示を経た中で、講演を聴いていた久山町役場の方から相談を受け、2012年より久山町でのプロジェクトが始動しました。2013年には、九州大学非常勤講師（2011年～2013年）であった山下氏が九州大学の客員教授となったことで、九州大学、アトリエ・天工人、久山町の官民学協働で進めることとなりました。

久山町では、1961年より約50年にわたり本学大学院医学研究院との共同事業として、九州大学大学院医学研究院環境医学分野久山町研究所にて久山町研究が行われており、平成17年には公益社団法人久山生活習慣病研究所が設立されるなど、健康づくりの取り組みが行われています。加えて、福岡都市圏にありながら豊かな自然を維持しています。このプロジェクトでは、久山町の魅力を活かし、農を基幹として美と健康をテーマに、本学大学院人間環境学府の大学院生、アトリエ・天工人、安成工務店と協力をして住宅設計を行います。

久山町からアトリエ・天工人へのアプローチにより動き出したこのプロジェクトは官民学協働で進められる中で、学生が主体的に参画することにより、新しい建築のあり方を提示し、さらには地域社会へ貢献することを模索しています。

内容

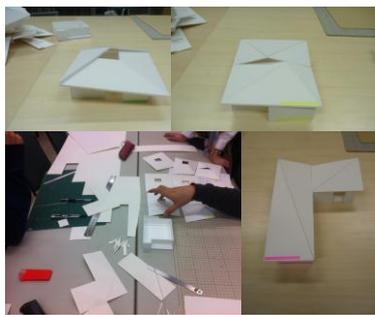
以上の背景より、2013年に本学大学院人間環境学府に在籍する大学院生とアトリエ・天工人を中心として、安成工務店も参画し、農・建築・広報のプロジェクトチームが編成されました。これまでに、久山町へのヒアリングや、現地視察を行いながら、各チームで①農によるコミュニケーションと具体的なツールの検討、②農と建築のハードの構築、③久山町や福岡市居住者の現状リサーチ等の活動が行われているところです。

今年春までには、実現化へ向けて各チームでの詳細を詰め、ワークショップ等を開催しながらこのコンセプトに賛同して生活していただける住民を募集する予定です。

【建築チーム】



模型によるスタディー



敷地調査



【農チーム】



食物の調査

| 樹の種類 | 写真 | 必要害虫 (匹) | 病害虫被害 |
|----------|----|-------------|--|
| 柿 | | 25~50 | 病害虫に非常に強い。無農薬でも、産地のレベルでは全く問題がない。 |
| プラム | | 50 | 木と木ともに害虫にやや強い。特に産木の時は、設置すると全ての葉がコガネムシ食べられおまんこになる。アブラムシも付きます。 |
| 柚子 | | 50 | 病気・害虫共に非常に強い。 |
| 青柿 | | 75 | 美に黒星病が付きやすい。付くと、高い斑点模様となり見た目が悪くなる。無農薬でも、見た目が悪くなるが十分な収穫が見込める。 |
| キューブフルーツ | | 30 | 病害虫に非常に強い。無農薬でも問題無く育つ。 |
| ざくら | | 50 | 病害虫に強く、殆ど被害を受けません。美園管理人の果樹園では、草に埋もれて放置されているにもかかわらず、元気に育っています。管理人の実地では木の幹に、カミキリ虫が入りましたが、とまらざりました。 |
| びわ | | 75 | 木にカミキリ虫が付きやすい。それ以外は、木・実共に非常に病害虫に強い。 |
| ブルーベリー | | 50 | 木は害虫にやや強い。葉は害虫に弱く虫が入りやすい。果樹園より見た目が悪くなることもあるが、食す分には問題ない。 |

体験農園の調査



【広報チーム】



HP の作成



facebook ページの利用



■効果

行政、民間企業、大学によってこのプロジェクトを進行することにより、多様な業種の専門家・活動家と学生との協働を促進することに繋がります。

学生達は、大学内だけにおさまらず社会の中での体験活動を通じて、求められる地域社会への貢献のあり方について考える機会を得ることができます。また、久山町の持つ自然や取り組みについて深く理解し、これからの社会が求める住宅や暮らしについて考えることで、実現化という目標に対して必要な、より実践的な視点・技術の習得に繋がる機会となります。

このプロジェクト全体を通し、「美と健康」をテーマとした新しい建築のあり方を提示し、またそれを基として地域社会への貢献を行っていくことも期待しています。

■今後の展開

今後、上記の企画に沿って、地元住民など地域の方々のご協力を仰ぎつつ、設計活動を行い、現代の生活と合致する「農」と関わる新しい暮らしの提案を行います。またそれに伴った広報活動も積極的に行い、プロジェクトの実現を目指します。

【お問い合わせ】

大学院人間環境学研究院 都市・建築学部門 助教

志波文彦 (しわ ふみひこ)

電話：092-642-3344

FAX：092-642-3345

Mail：shiwa@arch.kyushu-u.ac.jp